

令和2年度入学 法文学部 人文社会学科 昼間主コース

グローバル・スタディーズ履修コース 4回生 相原 賓七

「仏検2級取得までの学習」報告書

私は大学卒業までのフランス語学習の目標として定めていた実用フランス語技能検定試験（仏検）2級を大学4年の秋季に受験し、合格することができた。そのためにどのような学習を積み重ねてきたかを振り返って報告する。

私は1回生で履修する基礎外国語の授業でフランス語を選択し、この言語を学び始めた。2回生になってからも専攻科目としてフランス語の学習を続け、「フランス言語文化」を専攻するゼミに所属した。1回生から卒業に至るまでのあいだ、「フランス語」の名称を含む授業はできるかぎり受講するよう努め、その大半を履修している。中でもフランス語の文章の読解を中心とする「演習」系の授業では、フランス語を正しく理解するための文法の知識だけでなく、語彙力を高めることも必要になる。授業で扱われる文章を素早く読解できるようになるため、1回生時の教科書の復習に加え、『英語がわかればフランス語はできる！』という文法書と、レベル別の単語帳『クラウンフランス語単語』を用いて自習することを習慣づけた。また、会話力が求められる「フランス語コミュニケーション」の授業で、自然なフランス語のやりとりが出来るようになることを目標に、フランスの映画やドラマ、ネイティブが投稿するYouTube動画などを、1日1回は必ず視聴するようにした。

2回生の夏休みには、フランシュ-コンテ大学の附属語学学校CLAによる2週間のオンライン語学研修に参加した。クラスには各地の大学に在籍する日本人学生たちが集まっており、フランス語をフランス語だけを使って学ぶ機会が、こ

の言語に慣れ親しむ上で効果的であったのはもちろんのこと、フランス語の上手な方々や、フランス語学習に熱い想いを持つ方々と交流できたことで、大いに刺激を受ける機会となった。コロナ禍により、授業以外のフランス語を実践する機会がほとんど失われていた時期に、学習のモチベーションを維持・向上させてくれる貴重な機会であったうえ、研修後にはフランス人の大学院生をチューターとして、1ヶ月のあいだマンツーマンで対話する学習もでき、現地へ行って勉強したいという気持ちがさらに強まった。

こうした学習の成果を試す検定試験としては、3回生の春季に3級を受験し、合格した。それまで使ってきた教科書・参考書による文法の復習に加えて、単語帳で3級レベルとされている単語を重点的に覚えるよう学習したことが効果的だったように思う。

その年の9月からは、協定校であるディジョンのブルゴーニュ大学への交換留学が実現し、5ヶ月間、フランスで学ぶことができた。出発前から手続きに関する書類やメールなどを介して、それまでまったく馴染みのなかったフランス語に触れるようになり、実際に用いながら身につけていった。留学中は、語学の授業以外にも、文化や哲学に関するフランス語の授業を受講した。学外でも、町中で聞こえてくる言葉が全てフランス語、友人たちとの会話もフランス語、この言語を常時使う環境に身を置いたことで、語学力が大幅に向上するのを実感した。また、そこで出会った友人たちと、もっと深い内容を話せるようになりたいという思いが、フランス語学習への情熱を高めてくれたように思う。

帰国して4回生になったあと、9月にブルゴーニュ大学からの交換留学生を愛媛大学が迎えるにあたり、今度は私が現地学生としてチューターの業務を担当することになった。住民票の手続きや銀行口座の開設などを手伝ったが、難しい単語も多く、自分が持ち合わせている語彙力で何とか説明しようと努力を続

けているうちに、フランス語の会話力がさらに鍛えられたことを実感した。

目標としてきた仏検2級は、私が受験した秋季の場合、11月の1次試験を通過したあと、準2級以上に課される2次試験（1月におこなわれる口頭試験）でも一定の成果をあげなければ合格できない。まず、1次試験の書き取り問題と聞き取り問題の対策として、『仏検対策 2級問題集』と『クラウンフランス語単語』の中級・上級編を用いることに決め、問題集はどの設問でも満点を取れるようになるまで何度も反復して学習した。単語帳も、覚えていない単語には付箋を貼り、ちょっとした空き時間ができる度に目を通すことを心がけ、それでも苦手なままになった単語は一覧表にまとめて何度も見直すようにした。間違えやすい動詞の活用についても、書き込み式の教材『動詞活用をマスターするフランス語ドリル』を使って試験の直前まで復習した。

これらの対策を試験の1か半前から計画的におこなったおかげで1次試験に合格でき、2次試験までの約2ヶ月の間は、とにかくフランス語を使うことが重要だと考え、チューター業務を通じて親しくなった交換留学生の協力を得て対策を練った。留学生には2ヶ月間を通して毎週1時間の会話練習をしてもらったが、仏検の公式サイトや公式問題集などで公開されている過去問を参照し、それぞれの問いについてなるべく長く話せるよう練習を重ね、ネイティブならではの自然な口頭表現なども教えてもらった。その結果、本番の口頭試験では練習したことのある問題が出され、言葉に詰まることなく応答できたことが得点に繋がったのだと思う。

私が受験した4回生の秋から冬にかけては、卒業論文を仕上げていく時期とも重なっていたため大変ではあったが、受験を通してフランス語力を強化していたおかげで、2022年にノーベル賞を授与された作家の作品を研究対象とした卒業論文でも、多くのフランス語文献を参照することができた。卒業後は就職し

社会人として一步を踏み出すが、大学で学んだ4年間で取り組んできた学習方法でフランス語の学習を続け、遠からず準1級に挑戦するつもりだ。そして、就職後に身に付けていく力と、フランス語力とを結びつけたキャリアを切り拓いていきたい。



← 2024年2月に届いた合格証書

↓ 重点的に用いた参考書や単語帳

